

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属泉北幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ② 研修への参加や年度末に自己評価をおこなうなど、教員の資質の向上を目指す。
- 2 特色ある教育活動を展開し、保育内容の充実、資質向上を目指す。
 - ① 園の独自性、特色を生かした教育活動の展開に努める。
 - ② 大学と連携した学びと保育内容の充実を目指す。
- 3 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ① 園児の健康観察及び予防に努める
 - ② 園全体における安全対策・感染症対策の徹底
 - ③ 園児・保護者・地域の方向けの講習会の開催
- 4 地域の子育て支援拠点の充実と園児募集に向けた取り組み
 - ① おやこ教室の積極的PRに努め、園庭開放に来た保護者への相談・支援を積極的に行う。
 - ② 子育て支援の拠点として、地域との連携に努める。
 - ③ 園内外に向け、幼稚園の魅力を広く発信していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	日々の記録をもとに、毎日子どもたちの様子や出来事、保育の進め方などを話し合い、内容を見直すことで保育の資質向上に努めた。
②研修や自己評価による教員の資質向上	A	園外研修への参加や附属4園ごとの研究発表等、学びの機会を多く作った。また年度末に自己評価を行い、保育を振ることができた。
2 ①特色ある教育活動の展開	A	自然豊かな環境を生かした遊びや環境づくりを行なった。月1回のクッキングなど食育活動にも取り組んだ。
②大学と連携した学び	A	大阪芸術大学の専門教員による音楽・体育指導や柔道、絵画、お茶や作陶など質の高い学びと、iPadなどのニーズに応じた取り組みを進めた。
3 ①園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施している。また、保育中に体調の変化が見られた時には、保護者に連絡したり、降園時に伝えたりしている。
②感染症対策・安全対策	B	・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいす等の消毒 ・遊具の安全点検 ・常駐警備員の配置と防犯カメラの設置 ・車門ネットの設置
③講習会の開催	A	警察や地域の方による「交通安全指導」、園医による保護者向けの「歯科講習会」を行い、安全・健康管理対策を積極的に努めた。
4 ①子育て支援	A	園庭や保育室開放、未就園児向けおやこ教室を開催し、近隣施設へ周知し、参加促進に努めた。参加者と園児、保育者との交流を行った。
②地域との連携	A	市や地区主催のイベントの製作物展示などに積極的に参加した。小学校の公開授業や交流会へ参加、公開保育の招致など連携に努めた
③園児募集に向けた取り組み	B	チラシやSNSでの発信、地域イベントへの参加などを行ったが園児の増加に繋がっていない。夏祭りを開催し、幅広く来園の機会を作った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、教員の「学び」の機会を多く持つことができた。 ・必要な感染対策は継続して行い、健康観察、感染症対策に努めた。 ・登降園時に園児の様子を直接保護者に伝え、安心につながるよう努めた。 ・自然豊かな環境を生かし、食育や園庭の取り組みに園児と家庭、職員が協力することができた。 ・大学の専門教員による質の高い学びと充実した保育内容に努めることができた。 ・クラスだよりやSNSで行事や園生活の様子を知らせ、チラシの作成など情報発信を行った。 ・小学校との交流と連携、イベント参加や夏祭りの開催、園庭開放など園の魅力発信を努めた。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練により、緊急時における対処方法を教職員全員がさらに実施できるよう、共通認識を持つ努力をする。AEDの講習を教員全員で受けたが、今後も定期的に確認する。園全体の環境整備・安全点検をしっかりと行なう。
充実した保育の展開	教員の資質や指導力向上、充実した保育内容と質の高い学びを目指し努力する。また、自然豊かな環境の整備や園児の興味関心が広がる環境作りに努めていく。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 送迎の際に先生方とたくさん話をすることで繋がりを感じ、子どもとも園の話ができるのはとても幸せである。
- 専門の先生の指導でたくさんの事を教えてもらい、達成感と満足感があり、身に付くことが多く嬉しい。
- 幼稚園教育の基本である環境・遊び・特性を保育の中で大切にしていることがよく分かる。
- 豊かな環境があり、小動物の飼育や世話などで食育を進めることができている。
- 遊びにおいて専門的に学び、子どもの何を育てるかを考えられている。
- 教員の専門性もあり、保護者と子どものことを考え、育つことを大切にし、工夫して取り組んでいる。
- 運動会での親も一緒に参加できる競技がとても楽しい思い出になっている。
- お遊戯会の練習は、期間が長く気持ちが上がりきる子もいるが、緊張感もありすごく伸びて良くなる。
- 以前、放課後に保護者も参加できる専門の先生による音楽指導の機会があったが、また行って欲しい。
- 定期的に子どものことを保育者間で話し合うことは、多角的に考えることができるのでとても良いと感じる。
- それぞれ特性を活かした指導が行われており、子どもの個性・特徴など一人一人を大切にしている。

7. 公開保育について

実施日時	令和6年11月19日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属泉北幼稚園 保育室
保育者	あお組（年長）担当教諭
テーマ	トントンの相撲を楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 教授
参加者	小学校校長・教諭、幼稚園園長・副園長・主任・教諭、保護者
総評	導入部分の絵本の読み聞かせでは、思い思いに発言していて自然な言葉を聞くことができ、安心感のあるクラスの雰囲気がとても良いと思いました。全園児が好きな遊びを自由に選ぶことができる空間は素晴らしく、そのコーナー遊びでみんなが楽しめるものを自分たちで作るということはとても大切だと思います。今回の活動では子ども達の個性が出ていました。難しい左右対称に切ることも一生懸命トライし、顔を描く作業も自分たちでできていたので驚きました。強くするためや倒れないためにはどうしたら良いのか、課題があるとみんなで考えて工夫し、もっと良くしたいという意欲が出で、さらに工夫が生まれます。先生の声かけも、子ども達が考えることを大切にされていて、言葉をかけ過ぎずに良かったです。その中で時間内に終わらない子には安心できるような言葉がけがありました。一人一人に合った援助を丁寧に行っていて良かったです。人に対する信頼感や安心感を得ることは、小学校進学に向けて大切です。先生やお友達が大好きで自分の思いを伝えられることを大切にしている保育だと思いました。